

社会教育委員・担当者 共に学ぼう！研修

～未来を見据え、学びを動きにつなげる「社会教育委員」と「担当者」～

R7.12.4（木）
あすてらす

【講義】「よきこと」をつなぐ、「よき存在」になる
ー子どもたちの「ふるさと」をつくる/社会教育委員・担当者の役割を考えるー

大正大学教授/東京大学名誉教授
牧野 篤 氏

■語りあって当事者になる

- ・益田市の事例（益田版カタリ場）から
子どもたちは、大人たちから自分の人生（失敗談も含む）の話をくり返し聞く中で、
自分の人生を考えていく。

■社会教育の概念を問う

- ・社会教育という概念は、学校教育との対比によって規定されてきた。
- ・第4期教育振興基本計画の基本コンセプト
：「持続可能な社会の創り手の育成」
：「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」
- ・社会教育は、地域コミュニティを基盤とする社会の土台ある。人と人との「かかわり」や
「つながり」の土壌を耕しておくという役割が強調され、それが社会の持続可能性および
ウェルビーイングと結びつけられている。

■CompassionとWell-being（思いやり・我が事化と幸せを感じること）

- ・Compassionとは…悲しみを分かちあうこと。相手の身になること。（自分ごとにしていく）
- ・Well-beingとは…一人ひとりが幸せな状態にあると思えていること。
- ・Well-beingの社会教育の役割として、「よき状態（幸せを感じる状態）」から、「よ
き存在（社会に位置づく自己の認識）」へ
- ・「恩送り」は、自分への見返りを考えずに、相手にとって「よきこと」をすること。
⇒次世代を育むこと、社会をつなげること。

「サクセスフル・エイジング（積極的に年をとる）」「ポジティブ・エイジング（社
会とかかわることで更に活躍する年齢を伸ばす）」の先に、**人生最後の一時期をどう
過ごすのか**が問われる。

■GenerativityとTranscendence

- ・Generativityとは…次世代にかかわりたくなる自然な傾向性
- ・Transcendenceとは（**次世代への関心・かかわりと老年的超越**）
…目先の利害から気持ちが離れて、満足な最期を迎えることができる。

■社会教育主事・社会教育士の新たな役割

- ・社会教育主事：様々な行政領域と社会教育（行政）を結ぶ。
「**地域社会全体のオーガナイザー**」
- ・社会教育士：それぞれの専門分野において、社会教育的な手法を
用いて活動を展開する。
「**専門性を様々な場に生かす学びのオーガナイザー**」



■Be-ingであることでDo-erになる

- ・Do-erとは…やる人・つくる人



「ふるさと」をつくる
「ふるさと」に生きる

「よきこと」をつなげ
次の世代にかかわることで
老年的超越が起こり
「よき存在」となり
それが「よきこと」の連鎖＝ジグソーパズル型AAR連鎖運動が起こり
「よき社会」が生まれる。

■社会教育委員・担当者の在り方を考えると、これからはどのような役割が求められるのか

- ・「よきこと」を実践し、つなぎ、「よき存在」になることで「ふるさと」をつくり、
担い、つなげる次世代を育成する。
- ・おとなが「よきこと」をつなぎ、「よき存在」となり、「よき社会」をつくる。
- ・このために、「学び」を続け、「学び」によって人々の「つながり」「かかわり」の
土壌を耕し、かつ一般行政が有効に機能する。
- ・住民主体の「自治」の在り方を研究し、行政内部に実装する。

住民のWell-being実現の担い手

【実践発表】地域で活躍する安来市社会教育委員

安来市社会教育委員の会
安来市市民生活部地域振興課担当者

安来市の社会教育委員について

■安来市が社会教育委員に期待している役割

- ①行政と住民のパイプ役
- ②住民の学習ニーズに関するアンテナ的な
役割
- ③住民と一緒にになって社会教育活動を推進・
調整
- ④社会教育関係団体への支援者的役割

■主な活動

- ・年2回程度の会議
- ・各種研修への参加
- ・市事業への参画

自分たちに何が
できるかなあ

地域のみなさんが笑顔
になるためには・・・



地域で活躍する社会教育委員

社会教育委員の意見交換から

■地域住民を対象とした活動

目指す姿
「高齢者がイキイキと暮らし、地域で
住み続ける」

- ・地域住民が集まって楽しむ事業をする
- ・交流センターが地域活動の場所となる
- ・高齢者も現役世代も地域活動に関われ
るように世の中の意識を変えていく

地域での実践活動

- ・「地域の盛り上げ隊」の一員として
⇒交流センターの活動に参加
- ・地域で助け合う活動（**共助の意識の醸成につながる**）
⇒買い物や草取り等の支援

↓
地域全体が豊かになる

■学校と地域が連携して行う活動

目指す姿
「若い保護者世代が地域に誇りをもち、
皆があいさつしあう」

- ・子どもが地域で活躍できる場を学校・
地域・交流センターが協調整して
つくる
- ・伝統行事や地域行事を充実させ自治会
を巻き込んで地域を動かす

地域での実践活動

- ・学校の声を地域へ、地域の声を学校へ
届ける
- ・学校と地域が一体となって子どもたち
を育む活動
⇒地域の歴史や文化を伝える取組
（地域の歴史かるたの読み語り）
⇒子どもたちの出番を増やす
（地域の夏祭りに学校の学習展示ブースを出展）



■青少年・家庭教育と連携した活動

目指す姿
「働く人や子育てをしている人の活動
の場がある」

- ・子育て世代も参加したくなる事業をする
- ・地域の文化やくらしに誇りを持つことの
できる関わりをしていく
- ・学校以外で子どもの学習を支える場をつ
くっていく



【演習】「未来を見据え、学びを動きにつなげる『社会教育委員・担当者』をめざして」

（出された意見一部抜粋）

- ①「社会教育委員・委員の会」として、**今後やりたいこと**を、
ワークシートに記入する。
⇒記入した内容をグループ内で紹介し意見交流をする。

「社会教育委員」として

- ・子ども参画の地域交流をサポート
- ・みんなが「よき存在」になる土壌づくり
- ・地域と子どもたちをつなぐ！
- ・地域の方々の思いや意見を行政や学校に届ける

「委員の会」として

- ・子どもの声・意見を聴く、姿勢
- ・学びの機会と啓発
- ・市教育委員会と他の課の連携強化
- ・発言しやすい委員の会を目指す



- ②「社会教育委員・委員の会」として、**それを実行に移すため、
どう動き出すか**、ワークシートに記入する。
⇒記入した内容をグループ内で紹介し意見交流をする。

「社会教育委員」として

- ・日々の関わりの中で、子ども・地域との対話を実践する
- ・「地域」×「子ども」の要素を意識して事業企画・運営する
- ・会合等で名刺を渡し、社会教育委員の認知度を上げる
- ・広報等で活動を紹介する

「委員の会」として

- ・委員同士のつながりを深める
- ・教育委員会が何を求めているか理解する
- ・情報のアンテナを張る
- ・行政・教育委員との意見交換



【アンケートから】

- ・これからの町の姿のとらえ方、意義の変革・世代を超えた関わり、交わることの意味と
大切さ・行政と地域の関わり、関係の深さ、委員の存在感・教育現場、生徒と地域との
関わり、受け入れ、協働これらを多く学べました。
- ・心に残ったキーワード⇒「AAR」「ふるさと」「ウェルビーイング」⇒『AARを心がけ、ふる
さとを目標に、ウェルビーイングを目的に』と思いました。
- ・社会教育委員と担当者の方々が一堂に会する研修は貴重で、横のつながりをつくる良い
機会となりました。特に演習では、それぞれの現場の課題感を共有でき、有意義な研修
でした。

- ・人のつながり、コミュニケーション、対話、多世代との関わり、一人一人が幸せを感じ
る、自分ごととして、など、活動のヒントになる言葉がたくさんありました。今後自分
の活動にいかしていきたいと思いました。
- ・全体講評の中での言葉が印象に残りました。一緒に悩むこと（見捨てられない）、伴走支
援していく、これがまさに社会教育に必要なことだと思います。まわりにいつも居るよ
ういう存在になりたいです。